

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

当別町自然体験マップ作り

当別町

【事業のポイント】

- 地元学を参考にした「当別町自然体験そとあそびマップづくり」を作成し、当別町内の幼稚園、小学校の各家庭に配布し、身近な自然体験へのきっかけとした。
- 地図作りワークショップ、検討会議に集まった当別町内の人たちのネットワークが子供たちの自然体験を支えるプラットフォームとなることが期待できる。



地元学・地域の人へのインタビュー

1. 企画

(1) 事業実施の背景

当別町は札幌に隣接した農村地帯として人と自然が近い環境にある。また、札幌への通勤可能な距離にあることから、自然の中で子供を育てたい家族が移り住んでいる町でもあるが、地元の子供たちが自然の中で遊んでいる風景を見ることもあまりない。このようなことから、子どもたちも、子供を育てている若い親にとっても、風景としての自然は身近にあるが、どこで、何が出来るかわからずにいる。その結果、自然体験プログラムというお金のかかるイベントが自然体験だと思われようになり、お金がかかる自然体験、何か特別な準備をしなければならない自然体験というように、自然体験へのハードルが高くなっている。しかし、近年の脳生理学や人の学び、健康といった研究から、自然の活用が私たちの豊かな暮らしにつながるということがわかってきている。しかし、自然と隣接する当別町の強みを活かした暮らし、遊び、学びへの取り組みが出来ていない当別町において、本プロジェクトに取り組む意義が大きいと考えた。

(2) ねらい

子供たちと保護者が自然に出かけるきっかけを作り、自然と隣接する当別町の強みを活かした暮らし、遊び、学びを支える、安心して自然に出かけるプラットフォーム(基盤)作りを目的に本事業を実施する。そこで、子供たちの自然体験を推進するプラットフォームとしては、コト、モノ、ヒトの整備が必要かと考えた。コトとしては実際の自然体験プログラム、モノとして自然体験マップや情報、ヒトでは地域の人のネットワークを意味するものとした。この3つの関係は、地図作りをきっかけに人が集まり、出来上がった地図を使った自然体験プログラムを実施しながら、この3つの要素を連動させ、強化しながらプラットフォームを形成していくことをねらいとして本事業を実施する。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

当別町自然体験サポーター育成実施検討チームを以下のメンバーで構成している。

- 1) 城後 豊(札幌国際大学スポーツ人間学部特任教授)
- 2) 辻野 浩(辻野グループ代表)
- 3) 吉野 裕宜(当別町子ども会育成連合会)
- 4) 佐藤 立(当別夢の国幼稚園PTA)
- 5) 新林弘志(当別町ボランティア協会)
- 6) 山崎 公司(当別町議会議員)

(2) 具体的な取組の概要

- ① 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業実施検討会議の実施
 - ・プラットフォーム形成支援事業検討会議を3回実施した。
- ② 当別町自然体験そとあそびマップづくり講演会の実施
 - ・1回の講演会を実施した。
- ③ 当別町自然体験そとあそびマップづくりフィールドワークの実施
 - ・1回のフィールドワークを実施した。
- ④ 当別町自然体験そとあそびマップづくりワークショップの実施
 - ・2回のワークショップを実施した。

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
12月21日 (火)	第1回子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業実施検討会議
1月13日 (金)	講演会「地域を引き出すで地元学」実施
1月14日 (土)	フィールドワーク：地元学の実践/川下地区・金沢地区
1月26日 (木)	第2回子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業実施検討会議
1月31日 (火)	第1回ワークショップ
2月14日 (火)	第2回ワークショップ
2月16日 (木)	第3回子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業実施検討会議

3. 成果と課題

(1) 成果

マップ作りをしていく上で、地域を見る目が地元学講演会を通して良くわかった。また、フィールドワークでは川下地区での地元の方への講師のインタビューを見ながら、質問の方法、話題の方向性、思い出話の引き出し方を見聞きし、金沢の森では実際に森の中を歩き、森の特徴の捉える観察方法を学んだ。その結果、その後の地図作りワークショップにおいて、フィールドワークに参加した参加者から「あの時のおじいちゃんの話の中で自然の中での遊びを話していたときに楽しそうだったね。」とか「自分の孫に何を伝えたい?といった問いかけに対して生き生きとして話をしていた。」という発言につながり、地図作りを一般的な自然の紹介ではなく、一人称での語りを入れるといったアイデアになり、あわせて、地図作りの話し合いも活発に進んだ。

また、地図作りワークショップでは、マップ作り、地元の自然をキーワードに、地域の自然によく出かけている方、NPO法人のボランティア、PTA役員、幼稚園の保護者、農家、主婦、企業経営者という多様なメンバーにお越しいただき、マップ作りにそれぞれの立場からの多様なアイデアを出していただき、子供たちの自然に出かけたくなる道具というプラットフォームが出来たと同時に、ここに集まっていたいた方々の出会いとネットワークが子供たちの自然体験を支えるプラットフォーム(基盤)となる芽が出来た。

(2) 課題

事業実施までの手続きに手間取り、当初の申請時の予定ではなく、すべて実施時期に合わせて見直しを行った。地元学では地域の自然を観察するところからはじまるが、多忙な講師とのスケジュール調整などを行い、実施できた日程が自然が雪で真っ白く覆われた時期となり、地元学の特色を十分に伝えることができなかった。そんな中でも、人へのインタビューや雪の上での遊びなどをしながら、半年間が雪で覆われてしまう北海道の特色を活かしたフィールドワークにすることで、そのエッセンスを学べるようにした。

この事業のねらいは地図作りを通して子供たちの自然体験の推進になるプラットフォーム作りにある。当初は幼稚園、小学校、中学校、警察、消防などの方々も巻き込み、子供たちの安全で遊びと学びに繋がる人のネットワークによる子供たちの自然体験を一步進めるプラットフォーム(基盤)作りを目指し、行政が人間のNPO法人などとの協同による実施で行った。民間のNPO法人独自の関係性を活かすことでより多くの方々を巻き込んだネットワークが可能かと思われる。このように、プラットフォーム(基盤作り)として、地図というモノとしての基盤は形になったが、人のネットワークとしてのプラットフォーム(基盤)としては課題も多く、来年度以降は人のネットワークとしてのプラットフォーム拡充を目標に、行政とNPO法人の良いところを上手く組み合わせ、協力してゆくことでネットワークというプラットフォームと同時に、子供たちに緑をという雰囲気が当別町内で出来上がっていくように進めていきたい。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

2年目 1年目は子どもたちを緑に連れ出す為の基盤(プラットフォーム)として地図と人のネットワーク作りに取り組んだ。2年目はこの基盤をさらに強化するために、地図という紙媒体にインターネットという情報手段を付け足し、身近な自然を身近に感じられる取り組みを行う。また、人のネットワークでは行政の信頼や安心とNPO法人の軽いネットワークを活かした活用できるネットワーク作りを目指す。そのために、親子を対象とした自然体験プログラムを主催し、企画から実施、評価までをネットワークメンバーにも関わってもらうことで、ネットワークメンバーの関係性を促進させたい。

3年目 学校教育に「子どもたちに緑をプロジェクト」を広げることを目的に、ネットワークメンバー(町民や企業)と行政、NPO法人が協同しながら、当別町の自然を活かした子供達の学びの開発を行ったり、学校教育の中で積極的にプラットフォームを活用した取組を推進する。また、「子どもゆめ基金」等の助成金をも活用しながら自然体験プログラムを並行して実施する。

5. 団体プロフィール

当別町教育委員会

〒061-0292

北海道石狩郡当別町白樺町58番地9

TEL: 0133-23-2330(代表)

FAX: 0133-23-3206

URL: <http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/>

